

初夏という呼び名がぴったりの5月ですね。風薫る5月。本当に風の中に陽気な香りを感じるような気分になる毎日です。この時期になると食いしん坊の私は白アスパラを毎年堪能しています。独特の、ちょっと苦味のある大人の味。きりっと冷たい白ワインのお相手に最高です。食いしん坊の私ですが、今はやりのグルメとは距離を置こうと考えています。ただ毎日感謝を込めて生きるために食事を大切にしたい。1食を大切にしたいと思っています。幼稚園でも私の考えを次のようなお話で表現しています。今月はそのお話を書いてみます。長くなりますがお付き合いください。

ある料理の日に・・・

園長 「 さて、今日はみなでお昼御飯を作りましょう。今日はトン汁です。お野菜の準備をしてもらいます。ところでみんな、毎日何回御飯を食べてるの？ 」

子ども 「 朝と昼と夜で3回食べてるよ 」

園 「 3回食べてるの？ふ～ん、みんな一日3回御飯食べてるのかなあ？ 」

子 「 そうだよ、お父さんもお母さんも、お兄ちゃんも3回食べてるよ 」

園 「 じゃあ、世界中の人が3回食べてるのかなあ？ 」

( 子どもたち思案顔 )

園 「 実はね、みんながみんな一日3回食事してるのではないんだよ。中には一日に一度も御飯を食べられない子どもたちもいるんだよ。今ね、みんなと同じくらいの年の子どもたちは毎日百人以上亡くなってるんだ。そのほとんどの子どもたちは食べるものがないから死んでいく。誰も食べるものをくれない。だから体が痩せて、大きくならない。小学生なのに君達よりも体が小さく、体重も軽い。そんな子どもたちはまだ動けるときは自分で食べられるものを探そうとする。でも体に力がないから、すぐに疲れて、横になってしまう。そうしているうちに本当に動けなくなってしまふ。そうすると、食べるものも飲み物も手に入らない。そのままじっとしているだけ。顔にハエが止まっても動けない。もうおなかがすいていることもわからない。そのまま、眠ってしまうように命を失っていく。そんな子どもたちがたくさんいる。君達と同じような年なのに、同じように生まれてきたのに、悲しみもわからないようになって死んでいく。そんな子どもたちがいるに、どうして君達はお弁当を残すんだらう。嫌いなものが入ってるから？ 食べられる量以上に入っていたから？ 残してもおなかがすいたとき、他のものを食べることができるから？ どうして残すんだらう？」

( 子どもたちは無言 )

園 「 それは、お弁当を食べなくても他に食べるものがあるからだよね。そして晩御飯を食べなくても他に食べるものがあるからだよね。いつも必ず自分の好きなものがあるからだよね。でも、それでええのかなあ？ 自分の好きなときに好きなものを食べてもええのやろうか？ 先生は違うと思う。 どうしてかと言うと、それは『いただきます』の気持ちがないからやと思う。そして食べられることの幸せを感じていないからやと思う。今ね、みんなが食べているものは、全部そのものたちの命を食べていることを知ってる？ 食べ物全部に命があったんや。今日のカレーに牛肉を使うけど、牛肉ってどうやって売られてるか知ってる？ 牛肉は何の肉か知ってる人？」

子 「 はい、牛のお肉です 」

園 「 その通り牛のお肉やね。その牛のお肉をどうしたら牛肉になるか知ってる人？」

( ほとんど無言 )

園 「 牛肉を作るためにまず牛の赤ちゃんを育てる。お母さん牛のおっぱいをもらって大きくなった子牛に栄養のある餌を一杯食べさせて大きくする。大きくなった牛はお母さん牛から離されて、トラックに乗せられて遠くの市場に連れて行かれる。牛もそのことがわかるみたいだよ。それまでトラックに喜んで乗っていた牛も、その日はトラックに乗りたくないっていうように、足を突っ張って乗るのを嫌がる。でも無理やりトラックに乗せられて市場に連れて行かれる。市場に連れて行かれた牛は一番高く買ってくれた人に売られる。そして牛を殺す場所へ連れて行く。そこは殺される順番を待っている牛で一杯になってる。そして順番が廻ってきたとき、強い電気の鉄砲で頭を撃たれ、牛はすぐに死んじゃう。死んだ牛は皮をはがれ、おなかの中を全部出され、そしてお肉屋さんへと運ばれる。そこで骨付き肉やシチュー用の肉、ステーキ用の肉に分けられて、そしてお店の中に並ぶ。みんな、知らん間に牛の命を奪って牛肉を買って食べてる。豚肉もそう、鶏肉もそう、みんな知らん間に他の生き物の命を奪って食べている。牛や豚、鶏が何か悪いことをしましたか？ 誰か牛

いきなり叩かれた人はいますか？何もしていないのに豚に後ろから噛まれた人はいますか？何もしていない動物達の命をみんなは奪って食べているのです。魚もそうです。魚は海や川で泳いでいるだけです。自分達の生活を守ろうと、毎日餌を探して食べ、そして卵を産んで仲間を増やそうとしているだけです。彼らは水の中でしか生きることができないのです。そんなことを知っていながら、海や川に網を入れ、泳いでいる彼らを掬い取り、水の無い地上に引き上げて、そして死んでしまった魚たちを、みんなは食べているのです。魚は悪いことをしましたか？何もしていない魚の命もみんなは奪って食べているのですよ。動物や魚だけではありません。お米はそのまま刈り取らずに置いておいたら、次の年の春に新しい芽をだします。新しい稲の命の誕生です。でもその前に、みんなは刈り取って食べてしまいます。ジャガイモも引き抜かずに置いておくと、次から次から仲間を増やそうとします。そのジャガイモの新しい命の可能性を奪って食べています。みんなが口にするもの全部、命がありました。その命をみんなは食べているのです。何故でしょうか？先生は思います。それはみんなが生きるためなのです。そしてみんなが口にした命はみんなの体の中で生き続けていると信じています。命を奪われた牛たちも魚たちも、きっとみんなの体の中で食べてくれたことに感謝していると思います。大切な命をもらう。だから食べるときに丁寧に『いただきます』と言うのです。だから食べるときは背筋を伸ばして、尊い命を大切に味わうのです。食べ残したものや床に落ちて捨ててしまった食べ物は、ゴミ箱に捨てられたときにその命をなくしてしまいます。その瞬間、本当に死んでしまいます。他の命だった食べ物。それはとても大切に尊いものなのです。とても勿体ないものなのです」

この話は1学期に1度程度、みんなに聞いてもらっています。熱心に聴いてくれています。そしてその日のお弁当はみんなピカピカになるまで綺麗に食べてくれます。

昨年度の年長さんの女の子のお母さんからこんな話を聞きました。

「先日、娘が風邪を引き寝込んでいた時のことです。口内炎ができて、口の中が腫れていました。そして何を口にしても味がわからず、ただ痛みだけを感じていたようでした。それでも食事の時間になると、用意されたものを一生懸命食べようとしていました。『お口の中が痛いから無理に食べなくてもいいよ』というと、娘は『たくさんの命をもらって作ってもらったんだから、残せないんだ。だって勿体ないでしょ。』と言いながら時間をかけて最後まで食べていました。先生、本当に大切なことですよ、食べ物を大切にすることは。」

嬉しいお話でした。その女の子は本当に食べ物の大切さをわかってくれたと思います。小さな心に芽生えた食を大切にする気持ち。もっともっとこんな思いができる子どもたちが増えて欲しいと思っています。

《 つづく 》